



# News Letter

ニュースレター

2021.11 vol.120



リニア中央新幹線名古屋駅の建設現場。



名古屋駅東側の「飛翔」と、西側の「ゆりの噴水」。  
どちらのモニュメントも駅前広場から姿を消します。

## 特集◎ 名古屋駅周辺のまちづくり

リニア中央新幹線の開業に向けて変わる名古屋駅

### まちづくり支援

まちづくり団体に活躍するキラリと光るメンバーさん

都市センターまちづくり講座レポート「本とまちづくり」

### まちづくり来ぶらり

名古屋駅の135年間

# 名古屋駅周辺のまちづくり

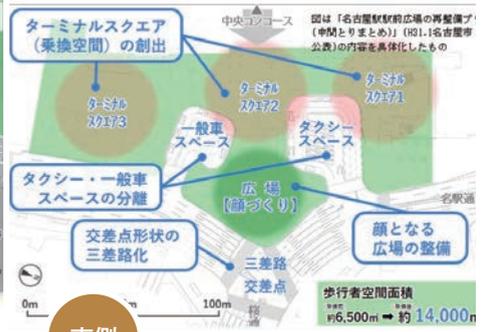
リニア中央新幹線の開業に向けて変わる名古屋駅



名古屋駅周辺では、リニア中央新幹線名古屋駅の建設のため、至る所で工事が進められている。



西側



東側



名古屋駅の西側・東側の駅前広場やリニア駅上部空間の整備の内容やイメージ図の一部 (画像提供: 名古屋市)  
※イメージ図についてはイメージであり、内容を確定するものではありません。

## 名古屋駅の転換点

1937年、現在地に移転新築され、「東洋一」とうたわれた名古屋駅。発展する名古屋の歩みを半世紀を越えて見続けてきました。1999年、JRセントラルタワーズが開業。2棟の超高層ビルは完成から数年間「世界一大規模な駅ビル」としてギネス世界記録に認定され、名古屋駅周辺の高層化をけん引し、名駅地区の商業・業務機能の集積を加速させました。そして2027年に予定されているリニア中央新幹線の東京一名古屋間開業で、現在の名古屋駅周辺の地下空間に「リニア中央新幹線名古屋駅」が誕生します。さらに2045年には大阪までの延伸が予定されており、3大都市圏が約1時間で結

ばれ、巨大な都市圏「スーパー・メガリージョン」が生まれようとしています。その交流人口は約7000万人。三大都市圏が有する特徴や強みが融合し、観光、産業、地域間連携など幅広い分野で新たな価値が創出されることが大いに期待されます。その中心都市となるのが名古屋。日本のものづくりの中心として、また中部圏における観光の拠点として、その役割がますます高まると期待されています。

## スーパーターミナル・ナゴヤへ

こうした背景のもと、名古屋駅周辺が名古屋大都市圏の玄関口として継続的に発展していくために、この機会を捉え、これまでの課題を解消し、リニア駅前にふさわしい空間の形成を進

めることが求められています。その指針となるのが「名古屋駅周辺まちづくり構想」(2014年9月)。目標とするまちの姿は「世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ～国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまち～」。

名古屋駅周辺は大きく変わろうとしているのです。現状の名古屋駅は、東側、西側エリアともに、駅前の空間をタクシーや一般車の乗降場が占め、「人が集い、憩える空間」が不足しています。乗り換えのわかりにくさもよく指摘されます。日本有数のターミナル駅でありながら、それにふさわしい風格や魅力に乏しく、駅から出ていく街へのつながりも感じられません。こうした課題を解決し、スーパーターミナル駅にふさわしい

高い機能性の発揮と、世界の目的地となる名古屋の新しい顔づくりを行おうというのが、今、着々と進む「名古屋駅駅前広場周辺の再整備」です。

## 名古屋の顔となる駅前広場

再整備プランでは、乗り換え利便性を向上させる「ターミナルスクエア」の整備や総合交通結節機能の充実と再編、大規模地震等に備えた防災性の高い空間の確保に取り組み、誰もが使いやすいターミナル駅をめざします。また「名古屋の新しい顔づくり」では、名古屋らしい文化や情報を発信する今までにない駅前広場を構想しています。駅から出て最初に目にするのが駅前広場。ここで「THIS is NAGOYA」、ああ、名古屋にいるんだと感じてもらおうことが狙いです。

東側エリアは、名古屋駅前モニュメント「飛翔」とロータリー交差点が、駅とまちをつなぐ開放感あふれる駅前

西側エリアの「設計チーム」として選定された「米澤隆建築設計事務所」の提案書【抜粋】にて提案された西側駅前広場（画像提供：名古屋市）  
※本提案書はプロポーザルの実施にあたり提出されたものであり、名古屋市の計画案として決定されたものではありません。計画案は関係者との会議等をふまえ、決定される予定です。



広場に生まれ変わります。また、西側エリアでは、2021年9月、リニア中央新幹線の開業時における名古屋駅西側駅前広場の整備について、リニア中央新幹線の玄関口にふさわしい開放性の高い広場を含む空間のデザイン計画の作成及び基本設計を行う「設計チーム」が選定されました。こうした空間に“名古屋らしい”演出を仕掛けようとしています。

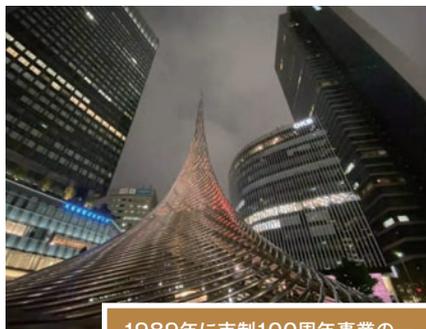
名古屋駅が大きく変わるのには東西の駅前広場だけではなく、地下に位置するリニア駅の上部空間は広場として活用され、にぎわい創出や緑を

活かした魅力向上を図られるとともに、防災機能が確保されます。これまでまとまった緑や広場が少なかった名古屋駅周辺に、人が集い、憩える広大な広場空間が誕生します。

今、名古屋駅を歩くと、リニア駅の建設のため、あちこちでビルの解体工事が進んでいます。名古屋駅前の再整備は、「人が主役の歩いて楽しい空間」を生み出し、回遊性を高めることにもなります。駅から、高層ビル群をめぐり、下町の商店街を歩き、名古屋城へ、栄へ。駅とまちがつながる新しい名古屋駅へ、今年、より大きな一歩を踏み出します。



名古屋駅地区まちづくり協議会の「おもてなし花たん」



1989年に市制100周年事業の一環として整備された「飛翔」。30年以上、駅前のシンボルとなってきました。（写真提供：あいざわけいこ）

### ●名古屋市“リニア課”Twitter

名古屋市住宅都市局リニア関連・名駅周辺開発推進課の公式Twitterでは、リニア中央新幹線の開業に向けた名古屋駅周辺のまちづくりに関する最新情報を発信しています。ぜひフォローしてください。

アカウント

@758shi\_linearka(名古屋市リニア課)  
[https://twitter.com/758shi\\_linearka](https://twitter.com/758shi_linearka)

## 名古屋駅駅前広場再整備で、名駅エリアのさらなる価値向上を。

名古屋駅地区街づくり協議会は2008年に29法人で設立され、現在会員は111法人。日本有数のターミナル拠点である名古屋駅地区を、「多くの人を訪れ、働き、学び、住みたい街」にしていくため、魅力向上とともに考え、日々活動を行っています。具体的には、清掃活動やおもてなし花だんづくり、エリア防災の取り組み、にぎわいづくりといった地道なものから、地区の未来を見据えて街づくりガイドラインの作成や、提言なども行っています。リニア中央新幹線の玄関口として、このエリアをもっといい街にしたいという思いを共有し、それが継続の力になっていると思います。

リニア開業を見据えた名古屋駅駅前広場の再整備には、私たちも大いに期待しています。まとまった公共空間が少ない名古屋駅前に、駅前広場が整備されれば、地上にも地下にもにぎわいが広がる回遊性の起点となりそうです。そしてなにより、名古屋駅前の日常の風景の中に、居心地のいい空間が生まれて人々が憩う。そんな広場を思い描いています。私たちも「ガイドライン2021」にバリューアップ戦略の項目を設け、さらなる街の価値向上に取り組んでいきます。

岸田 晃彦さん

名古屋駅地区街づくり協議会 事務局長



TOPIC  
1

まちづくり団体で  
活躍する

## キラリと光る メンバーさん

まちづくり団体については、普段は代表者の方に目が行きがちですが、現場に行くと「あの方は…?」と、気になる方がみえることがあります。雰囲気だったり、かけのまとめ役だったり、「この人がいるから活動の魅力が増す」…そんな「キラリと光るメンバーさん」に、スポットを当ててみました。

団体さんから  
この方を一言でいうと?!

ここぞというときに  
ピリリと締めてくれる。  
頼りにしています!



### 気軽にすけっと

副代表 一柳 敏恵さん

ご自身の活動の原点を尋ねると、「学童保育を自ら作った」とのこと。お仕事の傍らピラをまき仲間を集め、設立後は運営資金のためバザー…そんな経験を「知らないことを知ることができて、楽しかった!」と振り返る一柳さん。

その後も、子ども文庫の運営、地域の人が集まれるサロンづくり、子ども食堂に携わる等…。その原動力をお聞きすると、「好奇心!なんでも知りたい!やりたい!」と笑顔でお答え。

活動は「チームでやらないと続かない。代表者が全てやるのではなく、みんなで分担するのが長く続くコツ。資金稼ぎや、仲間を広げる工夫もみんなでなくちゃね!」とお言葉に、「気軽にすけっと」が進化し続ける秘密を知った思いでした。

団体さんから  
この方を一言でいうと?!

アイデアに  
「それいいね!楽しそう!」  
と言ってくれる  
前向き仲間



### ハピサンBooks

副代表 大矢 康子さん

副代表の大矢さん、実は別の活動では子育て支援団体の「代表者」の顔もあります。子どもの頃はおよこ劇場、大学生の頃はキャンプ場でイベント企画、出産後はママバンドなど、「人と一緒に楽しいことをする」ことを、人生の多くの場面で選んできました。そんな彼女ですが「ハピサンBooks」では副代表という立場。「楽しいことについていけばいい!」と、リラックスして楽しんでいるようです。「活動の中でいろんな人に出会い、それが繋がっていくことが楽しい!」という大矢さん。相乗効果で「ハピサンBooks」の活動のエンジンはより冴えて、どんどん新しいことができそうですね。

団体さんから  
この方を一言でいうと?!

いつも温かい見守り。  
手仕事が活動の幅を  
広げてくれる!



### 梅が丘三代を繋ぐ会

アドバイザー 須田 三恵子さん

「原点は小学校の頃の運針コンクール。一生懸命やった。」そんな思い出から、子ども達と針仕事をしたいと思うようになったそう。それが、梅が丘三代を繋ぐ会（以下「繋ぐ会」という）と出会って実現。刺し子や蛤の針山、マスク作りで、地域の子どもや親世代と交流。他にも、お茶や川柳など、須田さんのご縁で「世代間交流」に繋がるイベントが広がってきました。

これまでも小学校の編み物クラブ等の手伝いや、登校時の見守り隊など、子どもとの触れ合いを大切にしてきた須田さん。この活動に参加して「居心地のいい居場所ができた。」とのこと。「あの日私が自分から、子どもたちとお裁縫がしたいのって声をかけたのよ。」と、繋ぐ会との出会いを嬉しそうに振り返ります。繋ぐ会が、色んな世代の人が楽しめる活動ができるのは、こんな出会いを積み重ねているからかな、と感じました。

素敵な活動に、素敵なメンバーさんあり!ですね。皆さんの活動はこちらから



TOPIC  
2

# 今年「本とまちづくり」! ～都市センターまちづくり講座レポート～

令和3年度のまちづくり講座は、7月のスキルアップ講座「図書館でまちなび!」、そして9月からはまちづくりびと講座「本を扉にしてまちへ出よう」(全5回)が始まりました。今年の都市センターは「本」づいてます。

## 第1回スキルアップ講座

### 「読む! 見つける! 図書館でまちなび」

共催: 名古屋市鶴舞中央図書館



「まちづくりをしている人っていつも忙しいけれど、立ち止まって地域の情報を図書館の資料で調べられたら、よりよいまちづくりができるよね」そんな声が、この講座につながりました。

図書館の司書が、防災や環境、伝統行事等、様々な地域活動を想定し、こんなケースではこんな資料が役に立つのでは?!と、まちづくりに携わる人の目線に立って選書。

また館内ツアーにて、「どんなところに地域の資料があるのか」や、まちづくりに関係する本を「検索するためのコツ」等もおしえてもらいました。

受講者は「都市計画ができていく過程を知れば、地域の防災計画に活かせる」「書店に流通していない、市や団体の作成した地元密着データ本がある!」等、自分なりの「図書館のまちづくりへの活用方法」に思い至ることができました。



◀二階の郷土資料コーナーは地域情報の宝の山! 戦前の新聞も閲覧できるんです! みなさんも、是非一度「まちなび」に、図書館へ足を運んでくださいね。

講座の  
はり立ち

## まちづくりびと講座

### 「本を扉にしてまちへ出よう」

共催: 名古屋市熱田図書館



「仲間づくり」「合意形成」、まちづくりには大切ですね。でも、そんな言葉に少し尻込みしてしまう方もみえます。そんなときに、本を使ったまちづくり活動があることを知りました。読み聞かせイベントや、空き家に本を並べた地域のたまりば...

もしかして「本」の力を借りたら、人って一步を踏み出しやすいの? 人と関わり、話をするキッカケが生まれやすいの? そう感じたことが、この講座につながりました。

「本とまちづくり」の様々なイメージを持って集まった受講生。今後、どんな企画が生まれていくのか、楽しみです。

すでにまちづくり活動をされている方は、「本」というスパイスをどう効かせるか、考えてみるのも面白いかもしれません。

まちづくりびと講座初・オンラインで開催!

最終回までに、企画の「実践」も行う予定です。

講座のレポートはこちらから



講座の  
はり立ち

ホンとまちづくりについて  
思うこと



名古屋市熱田図書館長 井村 美里

最近はブックカフェや本棚のあるホテルなど、まちなかに本の魅力をプラスした施設が増えています。庭や店先に置くマイクロライブラリーもあります。親しみやすいのに、適度な距離感を保てる、本が楽しく人との関係が居心地良く、時代に合っているのでしょうか。

実は、図書館は絵本の読み聞かせ、本の装備、対面読書、点字通訳、録音図書を作る音訳、施設案内など、多くの活動(ボランティア)で成り立っています。

本を媒体とした活動は、知的で心豊かに人をつなぎ、やさしい気持ちにさせてくれます。

本に親しむ場や活動があるまちは魅力的。本のまちづくりびとの活動を応援します。



2代目名古屋駅



3代目名古屋駅

## 名古屋駅の135年間

我が国で最初の鉄道は明治5年の新橋・横浜間です。名古屋地方では、明治19年開通の武豊港から熱田へ資材を運ぶ武豊線が初めての官設鉄道でした。この路線が一宮へと延長し、中継地として設けられたのが名古屋駅(当時は「名護屋停車場」または「笹島停車場」といった)です。明治19年5月1日、笹島の地に開業しました。

当時の笹島は田や沼が広がる何もない土地だったといえます。駅舎は質素な木造平屋建てで、駅前には人力車が並んでいました。駅と町の中心を結ぶため、広小路通が西に延長されました。また、このころ政府が計画していた東京・京都間を結ぶ幹線鉄道が、名古屋を通るルートに決定し、後の名古屋の発展に大きく影響します。開業から5年後、濃尾地震で最初の駅舎は倒壊しましたが、翌年2倍の規模で再建され、明治31年には久屋町との間を路面電車が結ぶようになりました。名古屋駅を利用する人々は年を追うごとに増え、大正期には年間300万人余りが利用するよう

になりました。それまでの駅の規模では間に合わなくなり、昭和12年、現在の位置に地下1階、地上6階の新駅が建設されました。この頃、桜通も同時に整備されています。

新しい名古屋駅には名古屋鉄道と現近鉄の関西急行電鉄が地下駅を作って乗り入れ、昭和30年代には地下鉄の開通と東海道新幹線の開業を迎えます。こうして鉄道網が整備されたのち、この3代目名古屋駅は老朽化により平成5年に取り壊されました。その後、平成11年に駅を含む複合ビル・JRセントラルタワーズが完成し、周辺ではミッドランドスクエアやJPタワーなど高層ビルが次々と建設され、現在の名古屋駅エリアへと至っています。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

『国鉄名古屋駅百年史』(Sc-7)

『明治・大正・昭和 名古屋地図さんぽ』(Sc-3)

『中村区まち物語(名古屋の歴史と文化を楽しむ1)』(Sc-7)

『尾張名古屋大百科 名古屋開府400年記念誌』(Se-7)

※( )内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

まちづくりライブラリー  
全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査報告書なども収集しています。

## 図書紹介

### 『ちいさいおうち』

著者：バージニア・リー・パートン  
訳者：石井桃子  
出版社：岩波書店  
請求記号：Ca-4

静かな丘の上に、ちいさいおうちがたっていました。年月が経過し、周りは都市化が進み、ちいさいおうちは、大都会のまん中にポツンとひとり残されてしまいました……。その後、ちいさいおうちは引越し、ふたたびおだやかになりました。家という動かないものを主人公に、時をテーマにして、都市化を物語る絵本です。



### 『大学大倒産時代 都会で消える大学、地方で伸びる大学』

著者：木村誠  
出版社：朝日新聞出版  
請求記号：Pa-4

受験人口の本格減少により、各大学は、生き残りをかけて熾烈な戦いを繰り広げています。都会で倒産の危機が忍び寄る大学や地方でパワーを発揮する大学もあると考えられます。本書は各種データを徹底分析し、大学の運命を明らかにしています。一読することで関心のある大学がどうなるのか把握できるでしょう。



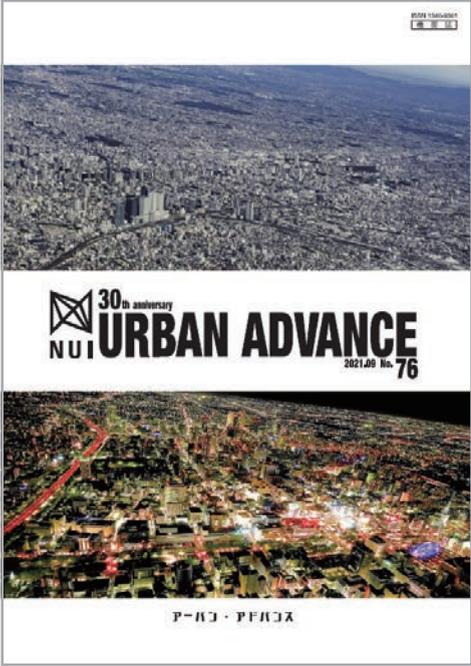
### 『環境問題とは何か』

著者：富山和子  
出版社：PHP研究所  
請求記号：Ka-1

本書は、「21世紀は環境の世紀、そして21世紀の資源は水と土」という考え方に立っています。著者は、「自然を守るとは、基本的には自然を利用することであり、利用している産業、即ち農業、林業、漁業を守ること」と説いています。環境問題を取り扱った一般的な本とは異なる視点を示してくれる一冊といえます。



1



**機関誌アーバン・アドバンスNo.76  
「名古屋都市センター設立30周年記念特集号」  
発行**

名古屋都市センターの30周年を記念する本号では、「コロナ禍の先を見据えた、名古屋のまちづくり」をテーマに、さまざまな分野の専門家に論文を執筆いただきました。

30周年を記念し開催した座談会では、「リニア開業×ポストコロナ時代」をテーマに、名古屋のまちを外側と内側から見た視点で、名古屋の持つポテンシャルと課題、将来への展望を語っていただきました。

この他にも、名古屋のまちの形成、歴史、戦災復興と区画整理を振り返り紐解く「名古屋のまちの変遷」、都市の発展をビジュアルで感じる特集ページなど、こだわりの1冊となりました。

●名古屋都市センター「まちづくりライブラリー」にて販売中。  
定価 1000円(税込み)

2

**SNSにて名古屋都市センターをチェックしてください!**

名古屋都市センターは、公式Facebookページ及び公式Instagramアカウントを開設しています。当センターで行う講演会や講座などの各種イベントのお知らせ、ニュースレターやアーバン・アドバンスなどの各種発行物のご案内、名古屋のまちづくり活動に関する情報など、さまざまな情報を発信しています。

Facebookは「いいね!」、Instagramは「フォローする」を押すと、あなたのもとへ当センターからの情報が届くようになります。ぜひ、名古屋都市センターの公式Facebookページ及び公式Instagramアカウントをチェックしてみてください!そして、「いいね!」や「フォローする」をぜひお願いいたします。



3

**名古屋都市センター まちづくり広場・まちづくりライブラリー  
天井工事に伴う休館について**

名古屋都市センターでは現在、天井工事に伴い、まちづくり広場を休館しています。また、まちづくり広場内にある喫茶コーナーにつきましても休業しています。

12階まちづくりライブラリーについては、天井工事に伴う影響を考慮し、工事が行われる平日は休館していますが、工事が行われない土曜日・日曜日や一部の祝日については開館し、通常どおりのサービスを実施します。

再開時期については、詳細が決まり次第、当館の公式ウェブサイトなどを通じてご案内いたします。

再開に際しては、名古屋都市センター及びまちづくり広場・まちづくりライブラリーが皆さまにとってより身近な存在となるよう、準備を進めています。

ご利用のお客様には大変ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



名古屋のまち

昔 今

若宮八幡社

現在の名古屋市中区栄3丁目

名古屋の総鎮守

この絵は、尾張名所図会に描かれた江戸時代の若宮八幡社(中区栄)の図です。多くの人に篤く信仰され賑わいを見せていた様子が見えます。創建は文武天皇の時代もしくは、大宝年間(701年～704年)と伝えられ、那古野庄今市場(現・名古屋城三の丸)にあり、延喜年間に再興されました。かつては三の丸天王社(那古野神社)南側に隣接していましたが、名古屋城築城の際に末広町の東(現・栄3丁目)に移されました。名古屋の中心を東西に走る100m道路・名古屋市矢場町線「若宮大通」の名は、この通りに面して鎮座するこの若宮八幡宮に由来します。末広町へ移転後の若宮八幡社は、尾張徳川家の氏神、尾張名古屋の総鎮守として当時の民衆から親しまれてきました。戦災により一時は焼失しましたがその後昭和32年に復旧造園されました。現在のこの周辺は、昼夜問わず交通量の多い若宮大通をはじめ矢場町、大須に近い立地から多くの人びとが行きかいます。しかしながら境内へ足を踏み入ると若宮の名にふさわしい常緑樹の橘や楠、銀杏、桜などの樹々に囲まれ、四季折々の風情を添えると共に名古屋の地を安鎮守護しています。



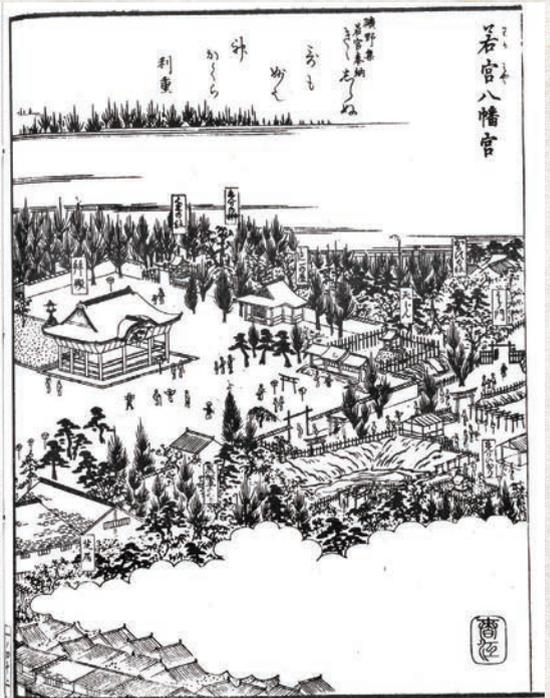
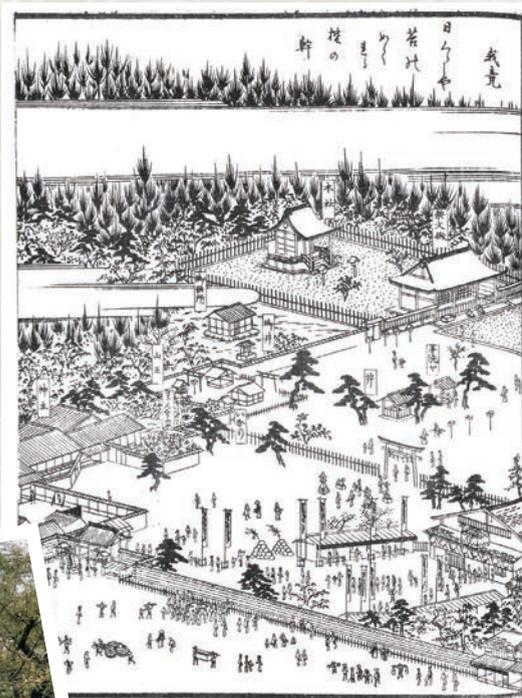
正面鳥居



本殿・正面



橘、銀杏、楠など  
緑に囲まれた境内



境内から見た若宮大通

〈参考文献〉※( )内はまちづくりライブラリーの請求番号です。  
 のーと 尾張名古屋名所図会 前編一(SCオ)  
 目で見える愛知の江戸時代 上 図書刊行会編(株)図書刊行会(SCコ)  
 目で見える名古屋中央史 中日出版社(SCニ)  
 名古屋の江戸を歩く 風媒社(SCミ)

〈参考HP〉  
 [公式]若宮八幡社 (www.wakamiya.or.jp)

公益財団法人 名古屋まちづくり公社

名古屋都市センター  
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

http://www.nup.or.jp/nui/



利用案内●どなたでもご利用いただけます。

[11階] まちづくり広場(展示スペース・ホール)  
休館中

[12階] まちづくりライブラリー  
土曜日・日曜日 開館(10:00-17:00)  
月曜日～金曜日 休館

ただし、月曜日・金曜日が祝日の場合は開館(10:00-17:00)  
 ※月曜日(祝日)・金曜日(祝日)・土曜日については、工事の状況によっては休館する場合があります。ご来館の際は、名古屋都市センター公式ウェブサイト内休館カレンダーにてご確認ください。



SNSやっています!

